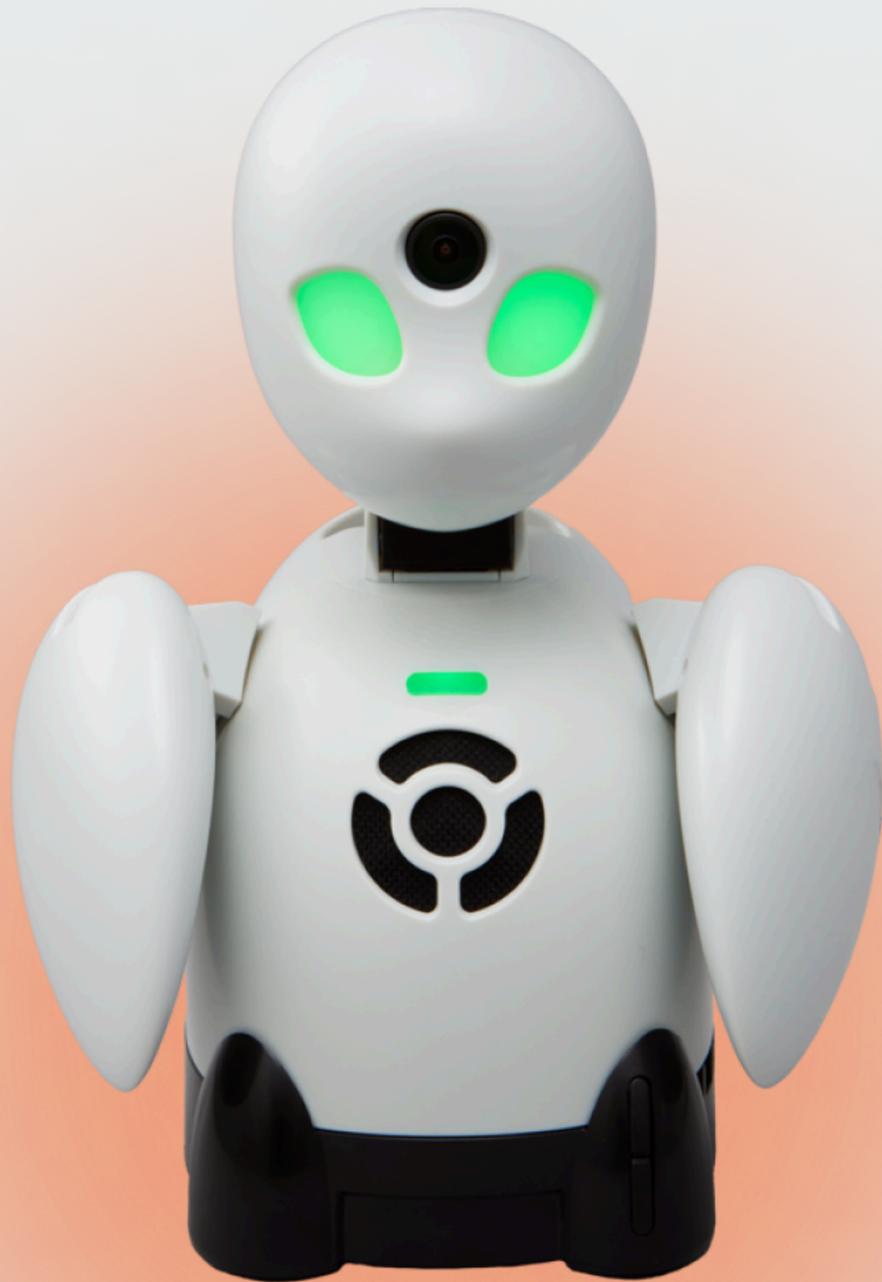


私の名前はOriHime
みんなの可能性を広げます



今、企業や福祉業界に注目される
遠隔操作ロボット、
それがOriHimeです。

オリヒメ

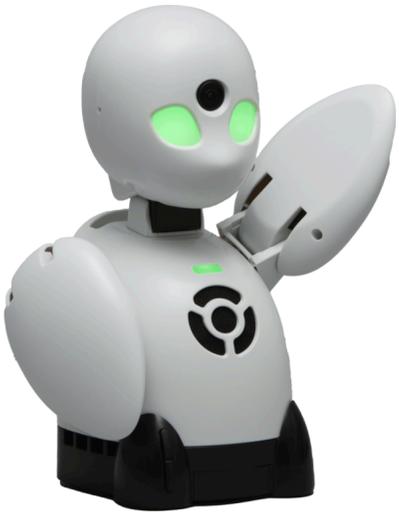


遠隔操作ロボットOriHimeの
より詳細な情報はコチラ
(株式会社オリィ研究所HP)

遠隔操作ロボットOriHimeが広げてくれる可能性とは？

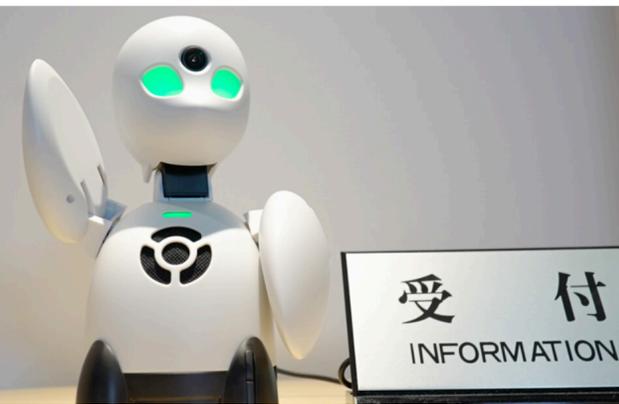
詳しくは裏面をご覧ください

距離も障害も昨日までの常識も乗り越えるための遠隔操作の分身ロボット、それが「OriHime」です。



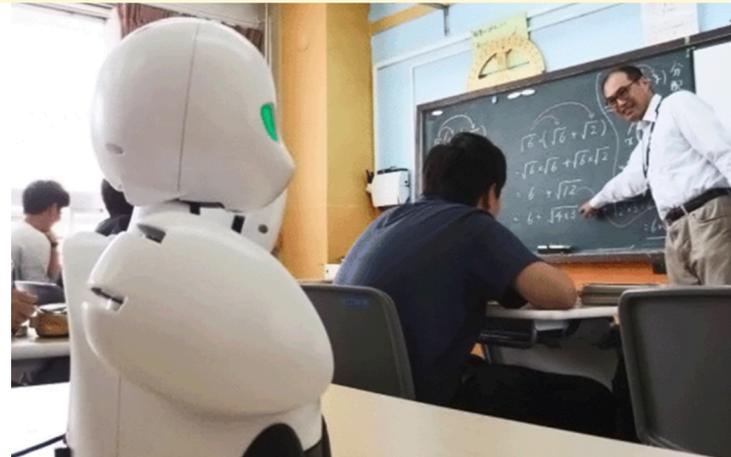
職場に置いて、家や遠い場所にいる社員に会議に参加してもらえる
お店に置いて、通勤が困難な障害者の方に接客を担当してもらえる
学校に置いて、通学できない生徒が授業を受けたり友達と交流できる
施設に置いて、ばあばが遠くに住む可愛い孫の結婚式に出席できる

OriHimeがそれを可能にします



会話もできるし、案内もできるし、注文だって受けられる。でも……。病気や障害でベッドから動けない、介護や子育てで通勤は難しい、人前ではどうしても固まってしまってもうまく話せない…。こうした方々は今まで、受付や接客として働くという選択肢はなかったと思います。OriHimeは、そんな彼らに代わって現場に出て、彼らが働く機会を広げています。OriHimeは、彼らにとっても企業にとっても新たな雇用形態を生み出しています。

教育現場では今、不登校児が年々増加しており、その対策に様々な取り組みが行われています。その一つに、OriHimeを通じた遠隔での授業参加があります。いきなり学校に行くのはハードルが高い…。でも、友達と一緒に学びたい、話したい、本当は学校に行きたい！そんな気持ちを持っている不登校児も実は多いのです。不登校児の前向きな気持ちを大切に、OriHimeが今日も授業に参加します。もちろん、ケガや病気で学校に来られない子どももOriHimeがつなぎます。



生徒たちが真剣に聞いているのは、障害についての授業。先生は、OriHimeの向こうにいるその障害のある方。障害者の社会参加を阻むハードルとは？健常者に理解してほしいこととは？子どもも高齢者も障害者も活躍できる社会に必要なこととは？学校で講義はできないけれど、OriHimeを通じて、当事者の視点から生徒に伝えることができます。一緒に考えることができます。今までは遠かった障害者の声が、直接届く。現実味を帯びる。新たな福祉教育の形をOriHimeが作ります。

～OriHimeを利用する当事者の声～

先天性ミオパチーである私は、常に車いすで移動し、時に人工呼吸器も使用しています。そんな私ですが、実は、北九州市にしながら東京・日本橋のオシャレなカフェで接客を担当しています。同僚も皆、様々な障害がありつつも、OriHimeを通じて、お客様の注文を取り、お客様との会話を楽しんでいます。

そのOriHimeが、北九州市社会福祉協議会に寄贈されるとのこと、私もとても楽しみです！社協は今、子どもたちへの福祉教育に力を入れており、実際に市内の小中学校で福祉の授業をしています。今後は私も講師として、OriHimeを使って、家から小中学生に障害福祉の授業を担当する予定です。

《一般社団法人先天性ミオパチーの会代表理事》 伊藤 亮 様



伊藤亮（いとうりょう）様と社協マスコットのプチボザウルス